

ブルガリア語¹

菅井 健太

以下、アンケートに沿った形でブルガリア語訳を示していく。必要に応じて簡単な説明も加えてある。

- (1) a. 彼はそのハエを殺した。

Той уби мухата.
he.NOM kill.AOR.3.SG fly.F.SG-the.F.SG²

- b. 彼はその箱を壊した。

Той счупи кутията.
he.NOM break.AOR.3.SG box.F.SG-the.F.SG

- c. 彼はそのスープを温めた。

Той стопли супата.
he.NOM warm.AOR.3.SG soup.F.SG-the.F.SG

- d. 彼はそのハエを殺したが、死ななかつた。

*Той уби мухата, но тя не умря.
he.NOM kill.AOR.3.SG fly.F.SG-the.F.SG but she.NOM NEG die.AOR.3.SG

(1d)は、ブルガリア語では非文となる。

- (2) a. 彼はそのボールを蹴った。

Той ритна топката.
he.NOM kick.AOR.3.SG ball.F.SG-the.F.SG

¹ 本アンケートの執筆に際して、ブルガリア語母語話者である Ивайло Денчев 氏（男性，21 歳，ソフィア出身）及び Десислава Зънгова 氏（女性，23 歳，ブルガス出身）の二名にご協力いただいた。記して感謝申し上げます。ただし、本稿における間違いは全て筆者に帰する。

² ブルガリア語の後置定冠詞は、男性・女性・中性・複数形を持ち、かかる名詞に従って変化する。また、男性形に限っては、主格とそれ以外の場合で異なった形をとる。現代ブルガリア語の正書法では、後置定冠詞はかかる名詞と分かち書きをしないので、その通例に従うが、本文中の例におけるグロスではハイフンで後置定冠詞を分けて示すこととする。

- b. 彼女は彼の足を蹴った.

Тя ритна крака му.³
she.NOM kick.AOR.3.SG foot.M.SG-the.M.SG.OBL he.DAT.CL

- c. 彼はその人にぶつかった (故意に).

Той го блъсна.
he.NOM he.ACC.CL hit.AOR.3.SG

- d. 彼はその人にぶつかった (うっかり).

Той се блъсна в него.⁴
he.NOM REFL.ACC.CL hit.AOR.3.SG to he.ACC

ブルガリア語では、「意志」の有無により、(2c)と(2d)のように表現することができる。(2c)は他動詞を使った表現であるのに対して、(2d)はいわゆる再帰動詞を使った表現となる。

- (3) a. あそこに人が数人見える.

Виждам няколко души там.
see.PRS.1.SG some person.NPL there

- b. 彼はその家を見た.

Той видя къщата.
he.NOM see.AOR.3.SG house.F.SG-the.F.SG

- c. 誰かが叫んだのが聞こえた.

Чух, че някой изкрещя.
hear.AOR.1.SG that someone scream.AOR.3.SG

- d. 彼はその音を聞いた.

Той чу звука.
he.NOM hear.AOR.3.SG sound.M.SG-the.M.SG.OBL

³ ブルガリア語では、人称代名詞及び再帰代名詞の与格クリティック形は、所有の意味でも用いられる。

⁴ 人称代名詞及び再帰代名詞が前置詞と共に用いられるときは、非クリティック形の対格が用いられる。

ブルガリア語では、知覚 2A と 2B の間で格枠組みの差は現れず、人称代名詞ならば直接補語はいずれも対格となって現れる。

(4) a. 彼は (なくした) 鍵を見つけた。

Той намери ключа.
he.NOM find.AOR.3.SG key.M.SG-the.M.SG.OBL

b. 彼は椅子を作った。

Той направи стол.
he.NOM make.AOR.3.SG chair.M.SG

(5) a. 彼はバスを待っている。

Той чака автобуса.
he.NOM wait-for.PRS.3.SG bus.M.SG-the.M.SG.OBL

b. 私は彼が来るのを待っていた。

(i) Чаках го да дойде.
wait-for.IMPF.1.SG he.ACC.CL SMP come.PRS.3.SG

(ii) Чаках той да дойде.
wait-for.IMPF.1.SG he.NOM SMP come.PRS.3.SG

c. 彼は財布を探している。

Той търси портмонето си.
he.NOM look-for.PRS.3.SG purse.N.SG-the.N.SG REFL.DAT.CL

(5b)に関して、「待つ」の直接補語節内の動詞の意味上の主語は、対格と主格のいずれも用いられうる。ただし、いずれの形式であっても、даに先行した位置におかれる。

(6) a. 彼はいろいろなことをよく知っている。

Той знае много (неща).
he.NOM know.PRS.3.SG many thing.PL

b. 私はあの人を知っている。

Познавам го.
know.PRS.1.SG he.ACC.CL

c. 彼にはブルガリア語がわかる.

Той знае български език.
he.NOM know.PRS.3.SG bulgarian.M.SG language.M.SG

ブルガリア語では, (6b)にあるように, 「(人)を見知っている」の意味には異なった動詞が用いられるが, 直接補語はいずれの動詞の場合も対格となる.

(7) a. あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか?

Помниш ли какво ти казах вчера?
remember.PRS.2.SG Q what you.DAT.CL tell.AOR.1.SG yesterday

b. 私は彼の電話番号を忘れてしまった.

Забравих номера му.
forget.AOR.1.SG number.M.SG-the.M.SG.OBL he.DAT.CL

(8) a. 母は子供たちを深く愛していた.

Майката силно обичаше децата си.
mother.F.SG-the.F.SG strongly love.IMP.3.SG child.PL REFL.DAT.CL

b. 私はバナナが好きだ.

Обичам банани.
love.PRS.1.SG banana.PL

c. 私はあの人を嫌いだ.

Мразя го.
dislike.PRS.1.SG he.ACC.CL

(8a)及び(8b)のいずれも *обичам* 「愛する, 好む」という他動詞を用いており, 直接補語は対格となって現れるが, コンテキストによっては *харесвам* 「好む」という動詞も用いることが可能である. この場合格枠組みは変わってくる. 意味的な主語 (好む主体) は与格で現れ, 意味的な補語 (好む対象) は主格で現れる. 後者は文法上の主語であるので, 動詞は人称・数でこれに一致する. ただし, この動詞には「愛する」という意味合いはないので(8a)では使えない. また, 母語話者によれば, (8b)の場合も *харесвам* を用いて言うことはできないという. 「好む」対象が(8b)のように総称的な意味合いの場合には非文と判

断されるのに対して、以下(8b)'のように指示代名詞を用いて具体的な事物とすれば可能となるようである。この点に関しては今後の課題としたい。

- (8b)' Харесва ми този банан.
 like.PRS.3.SG I.DAT.CL this.M.SG banana.M.SG
 「私はこのバナナが好きだ。」

(9) a. 私は靴が欲しい。

Искам обувки.
 want.PRS.1.SG shoe.PL

b. 今、彼にはお金が要る。

(i) Сега той има нужда от пари.
 now he.NOM have.PRS.3.SG necessity.F.SG from money.PL

(ii) Сега той се нуждае от пари.
 now he.NOM REFL.ACC.CL need.PRS.3.SG from money.PL

(iii) Сега му трябват пари.
 now he.DAT.CL need.PRS.3.PL money.PL

(iv) Сега са му необходими пари.
 now he.PRS.3.PL he.DAT.CL necessary.PL money.PL

「～を必要としている」という意味を出すためには、ブルガリア語では(9b)にあるように4通りの表現が可能である。(i), (ii)は必要としている主体の「彼」は主格で表され、(i)では名詞の *нужда* 「必要性」を用いて表現し、(ii)では動詞の *нуждая се* 「必要とする」を用いて表現している。この際、必要とされる対象は、前置詞 *от* を用いて表す。一方で、(iii), (iv)は必要としている主体は与格で表される、(iii)では動詞の *трябвам* 「必要とする」が用いられ、(iv)では形容詞の *необходим* 「必要な、必須な」が用いられている。この際、必要とされる対象は文法上の主語となるので、当該文の動詞はそれに一致した変化をし、(iv)の形容詞 *необходим* も性・数でそれに一致して変化する。

(10) a. (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている。

(i) Майка ми е ядосана на брат ми,
 mother.F.SG I.DAT.CL be.PRS.3.SG angry.F.SG to brother.M.SG I.DAT.CL

защото излъга.
because lie.AOR.3.SG

(ii) Майка ми се ядосва на
mother.F.SG I.DAT.CL REFL.ACC.CL make-angry.PRS.3.SG to
брат ми, защото излъга.
brother.M.SG I.DAT.CL because lie.AOR.3.SG

b. 彼は犬が怖い.

(i) Страх го е от кучета.
fear.M.SG he.ACC.CL be.PRS.3.SG from dog.PL

(ii) Той се страхува от кучета.
he.NOM REFL.ACC.CL make-fear.PRS.3.SG from dog.PL

(iii) Той има страх от кучета.
he.NOM have.PRS.3.SG fear.M.SG from dog.PL

まず(10a)に関して、「怒っている」という意味は形容詞(ii)または動詞(iii)を用いて表すことができる。また、以下(10a)にあるように、(ii)の形容詞と(iii)の動詞と同語源である名詞 яд 「怒り」を用いても表すこともできるが、その場合は多少ニュアンスが異なり、文脈により「不満」や「後悔」の意味合いが出てくる。この際の指摘すべき構造上の特徴は、主体が対格で現れることである。

(10a)' Майка ми я е яд на
mother.F.SG I.DAT.CL she.ACC.CL be.PRS.3.SG anger.M.SG to
брат ми, защото той излъга.
brother.M.SG I.DAT.CL because he.NOM lie.AOR.3.SG

(10b)に関しては、ブルガリア語では3通りで表すことができる。(i)は、上の(10a)(i)と同様の構造で、名詞 страх 「恐れ」を用いた表し方である。恐れている主体は対格で表される。また、(iii)も同様の名詞を用いるが、主体は主格で現れる。(ii)は страхувам се 「恐れる」という動詞を用いたものである。一方で、(i)~(iii)に共通しているのは、恐れている対象が前置詞 от を用いて表すことができる点である。

また(10a)'及び(10b)(i)のように対格が現れるような構造が用いられる場合で興味深いの

は、対格で現れている意味上の主語は、以下の(10a)", (10b)'のように二重に表現されうるといことである。上記(10a)'でも同様に「二重化(clitic doubling, удвояване)」がみられる。

(10a)" (i) Иван го е яд.
Ivan he.ACC.CL be.PRS.3.SG anger.M.SG
「イワンは怒っている。」

(ii) Мене ме е яд.
I.ACC I.ACC.CL be.PRS.3.SG anger.M.SG
「私は怒っている。」

(10b)' (i) Иван го е страх.
Ivan he.ACC.CL be.PRS.3.SG fear.M.SG
「イワンは恐れている。」

(ii) Него го е страх.
he.ACC he.ACC.CL be.PRS.3.SG fear.M.SG
「彼は恐れている。」

(10a)"(i)及び(10b)'(i)にあるように、人称代名詞以外の名詞句が用いられるとき、同一指示の人称代名詞による二重化はブルガリア語では義務的である。現代標準ブルガリア語では人称代名詞以外の名詞は、スラヴ祖語や古教会スラヴ語にあったような格変化を呼格を除いて失っているため、対格を明示的に標示することができない。人称代名詞の対格形による二重化は、当該の名詞が対格であることを表す機能があるかもしれない。しかしながら、(10a)"(ii)や(10b)'(ii)のように、対格形を持つ人称代名詞同士が二重に用いられることもある。ブルガリア語では、人称代名詞の対格及び与格で、クリティック形と非クリティック形⁵が存在する。(10a)"(ii)の менеと(10b)'(ii)の негоはそれぞれ対格の非クリティック形であり、меとгоは対格のクリティック形である。このような場合であっても、二重化は行われる。また、クリティック形だけ用いる(10b)'(i)のような場合は文法的に完全に正しい文となるが、以下のように非クリティック形だけを当該構造の文で用い、クリティック形による二重化をしない場合には非文となる。

⁵ 現代標準ブルガリア語では、与格の非クリティック形は対格の非クリティック形に与格標識の на を付した分析的な形態をとる。例えば(8b)"を見よ。統合的な与格の非クリティック形は現代では一部の方言を除いて廃れてしまった。

- (10)' *Мене е яд.
 I.ACC be.PRS.3.SG anger.M.SG
 *Него е яд.
 he.ACC be.PRS.3.SG anger.M.SG

また, (8b)'についてもこれと同様の条件下では, 以下のように二重化は義務的である.

- (8b)" На мене ми харесва този банан.
 DM I.ACC I.DAT.CL like.PRS.3.SG this.M.SG banana.M.SG
 「私はこのバナナが好きだ。」

- (11) a. 彼は父親に似ている.

Той прилича на баща си.
 he.NOM look-like.PRS.3.SG to father.M.SG REFL.DAT.CL

- b. 海水は塩分を含んでいる.

Морската вода съдържа сол.
 sea's.F.SG-the.F.SG water.F.SG contain.PRS.3.SG salt.F.SG

- (12) a. 私の弟は医者だ.

Брат ми е лекар.
 brother.M.SG I.DAT.CL be.PRS.3.SG doctor.M.SG

- b. 私の弟は医者になった.

Брат ми стана лекар.
 brother.M.SG I.DAT.CL become.AOR.3.SG doctor.M.SG

- (13) a. 彼は車の運転ができる.

Той може да кара (кола).
 he.NOM can.PRS.3.SG SMP drive.PRS.3.SG car.F.SG

- b. 彼は泳げる.

Той може да плува.
 he.NOM can.PRS.3.SG SMP swim.PRS.3.SG

(13a), (13b)はいずれも「～できる」を意味する動詞がないと可能を表すことができない.

しかし、「話す」であればなくとも可能の意味になる。

- (13)' Той говори български.
 he.NOM speak.PRS.3.SG bulgarian
 「彼はブルガリア語が話せる。」

(14) a. 彼は話をするのが上手だ.

- (i) Говоренето му се отдава.
 speaking.N.SG-the.N.SG he.DAT.CL REFL.ACC.CL give.PRS.3.SG

- (ii) Той е добър в говоренето.
 he.NOM be.PRS.3.SG good.M.SG in speaking.N.SG-the.N.SG

b. 彼は走るのが苦手だ.

- (i) Тичането не му се отдава.
 running.N.SG-the.N.SG NEG he.DAT.CL REFL.ACC.CL give.PRS.3.SG

- (ii) Той не е добър в тичането.
 he.NOM NEG be.PRS.3.SG good.M.SG in running.N.SG-the.N.SG

(14)はいずれも(i)と(ii)の構造が可能である。(i)では主体は与格で表され、(ii)では主格で表される。また、отдава (うだわ) ми се в ~で「～が (私は) 上手である」を意味する慣用句である。

(15) a. 彼は学校に着いた.

- Той пристигна в училището.
 he.NOM reach.AOR.3.SG to school.N.SG-the.N.SG

b. 彼は道を渡った/横切った.

- Той пресече улицата.
 he.NOM cross.AOR.3.SG road.F.SG-the.F.SG

c. 彼はあの道を通った.

- Той мина по онази улица.
 he.NOM pass.AOR.3.SG along that.F.SG road.F.SG

(15a)の пристигна「着く」と(15c)の мина「通る」はいずれも自動詞として用いられるが、(15b)の пресека「横切る」については他動詞として用いられる。

(16) a. 彼はお腹を空かしている。

Той е гладен.
he.NOM be.PRS.3.SG hungry.M.SG

b. 彼は喉が渇いている。

Той е жаден.
he.NOM be.PRS.3.SG thirsty.M.SG

(17) a. 私は寒い。

Студено ми е.
cold.N.SG I.DAT.CL be.PRS.3.SG

b. 今日は寒い。

Днес е студено.
today be.PRS.3.SG cold.N.SG

(17a)に関して、寒いと感じる主体は与格で表される。

(18) a. 私は彼を手伝った/助けた。

Помогнах му.
help.AOR.1.SG he.DAT.CL

b. 私は彼がそれを運ぶのを手伝った。

Помогнах му да го пренесе.
help.AOR.1.SG he.DAT.CL SMP it.ACC.CL carry.PRS.3.SG

ブルガリア語では、「助ける」という意味の動詞の補語は与格で現れる。

(19) a. 私はその理由を彼に訊いた。

Питах го за причината.
ask.AOR.1.SG he.ACC.CL about reason.F.SG-the.F.SG

b. 私はそのことを彼に話した.

Казах му за това.
tell.AOR.1.SG he.DAT.CL about it

(20) 私は彼に会った.

(i) Срещнах го.
meet.AOR.1.SG he.ACC.CL

(ii) Срещнах се с него.
meet.1.AOR.1.SG REFL.ACC.CL with he.ACC

(20)は上記のいずれでも言うことができる。(i)では動詞は他動詞であらわされる一方で、(ii)では再帰動詞にあたる表現を用いてあらわされている。

略号一覧

ACC = accusative, AOR = aorist, CL = clitic, DAT = dative, DM = dative marker, F = feminine, IMPF = imperfect, M = masculine, N = neuter, NEG = negation, NPL = numerical plural⁶, NOM = nominative, OBL = oblique, REFL = reflexive (pronoun), PL = plural, PRS = present, SG = singular, SMP = subordinating modal particle

⁶ ブルガリア語では **бройна форма** 「個数形」と呼ばれる。1を除いた数詞やその他一部の数量詞と共に用いられる男性名詞はこの形をとる。